

## 第6回 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議 議事要旨

平成22年3月10日（水）18:00～20:00

中央合同庁舎3号館 11階特別会議室

### 【出席者】

中川座長、宇野委員、三本木委員、鈴木委員、田中委員、辻本委員、道上委員、森田委員、山田委員、前原大臣、馬淵副大臣、辻元副大臣、三日月政務官、中原政策官、佐藤河川局長

### 【委員以外からのヒアリング】

○太田猛彦氏より、森林の機能に関して、

- ・ 森林の変貌
- ・ 森林の洪水緩和機能
- ・ 水資源貯留機能と水質浄化機能
- ・ 土砂災害防止機能
- ・ 森林の多面的機能

について発表があった。

その後、

- ・ 森林の成長に伴う流況曲線の変化の図について、森林の成長と降雨の変動とどちらの影響が大きいのか。
- ・ 治水計画の対象となるような大洪水に対して、森林の手入れによって抜本的な洪水緩和効果があるのか。

等について委員との間で質疑応答があった。

### 【意見募集の結果について（速報）】

○事務局から、速報値で403件の意見が寄せられたこと、寄せられた様々な提案を整理中であること、氏名等の個人情報保護などの処理を行った上で、国土交通省ホームページで公表する予定であること等が報告された。

### 【治水対策の方策について】

○「治水対策の方策」について討議が行われた。

○主な意見は以下のとおり。

- ・ どのような治水方策案があるのかを整理できたことは重要ではないか。
- ・ 河川の規模や地形的特性等に応じて方策が変わる可能性があるのではないか。
- ・ 掲げられた方策のうち、排水機場は異質なものではないか。ただし、堤防のかさ上げを行うと、内水が排水しづらくなるので、かさ上げと排水対策をセットで考えるという考え方はあるのではないか。
- ・ 超過洪水を考えると、「洪水の予測・情報の提供等」は充実させるべきではないか。一方の考え方として、「洪水の予測・情報の提供等」は、ダムを代替する機能がないので、この程度の記述ぶりではよいのではないか。
- ・ むしろ、超過洪水における効果等は、ほぼ同等の治水対策案を評価する際の「評価軸」として考えられるのではないか。
- ・ 耐越水堤防については、河川の大きさに応じて整理してはどうか。
- ・ 耐越水堤防が「技術的に困難」とは、経済的、社会的に困難だという意味であるので、誤解を招かないようにするべきではないか。
- ・ どのような安全度とするか、どの程度コストをかけるか、被害の受忍をどのように考えるか等について共通認識を持つよう議論するべきではないか。
- ・ ダムの検証を行うために、考えられる方策を整理したということはよいが、新しい考え方については、夏以降に議論する課題として重要となるのではないか。

### 【その他】

○今後のスケジュールについて、次回以降、引き続き中間とりまとめに向けての討議等を進める。